

## 告 辞

まさに桜も開花せんとする今日の佳き日に、ご来賓の方々ならびに保護者の皆様をお迎えして、大分工業高等専門学校本科第五十二回卒業式並びに専攻科第十五回修了式を挙行できますことは、本校にとって誠に大きな慶びであります。しかも、本年は記念すべき平成最後の卒業式、修了式となりました。

ただ今、卒業証書とともに準学士の称号が授与されました本科卒業生百五十九名の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。皆さんは中学校を卒業し、期待と一抹の不安を抱えて本校に入学してから五年間、本校の掲げる教育目的を達成するため、体系的に編成された基礎および専門の講義・実験・実習・インターンシップなどを通して実践的な専門技術を学び、さらに卒業研究により未知の課題に取り組む、解決する力を修得されました。また同時に、日々の学校生活での先生方そして友人との触れあい、学生会・寮生会を中心とした様々な課外活動を通じて、人間性を磨いてこられました。その結果として、ここに大きな成長を遂げ、本日卒業を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

そして修了証書とともに、学士（工学）の学位が授与され、加えて、JABEEプログラムの修了証も取得されました専攻科修了生二十九名の皆さん、専攻科修了、誠にありがとうございます。皆さんは、JABEE認定のカリキュラム「システムデザイン工学プログラム」に沿って、より深い専門の学問と高度な特別研究に取り組まれ、自らの能力として創造力と実践力を高められるとともに、下級生への指導も含めて、本校の教育と研究の充実に貢献して頂きました。皆さんが、高度の教育課程を納められ、新たな旅立ちの日を迎えられましたことは、私共の慶びとするところであります。

私ども教職員そして在校生一同は、百五十九名の本科卒業生そして二十九名の専攻科修了生の皆さんとともに、この晴れの日の慶びを分かち合いたいと思っております。

卒業生・修了生の皆さんを、入学以来今日まで支え、励まして来られた保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。皆様におかれましては、今日という日を待ち望んでおられましたこととお気持ちを御察し申し上げますとともに、今、成長されたご子息、ご息女の晴れ姿に万感の思いでご臨席戴いていることと存じます。また高壇からではございますが、この場をお借りして、これまで皆様方から頂戴しました、学校の諸活動に対する多大なご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

卒業生、修了生の皆さんも、今日あるのは自分の努力だけではないことを再認識していただき、どうぞ、お世話になった方々にきちんと感謝の気持ちを表して下さいますようお願い致します。

大分高専をこれまでに巣立った本科卒業生が七千二百四名、そして専攻科修了生が三百三十一名であり、先輩達は国内外の各所で活躍されています。皆さん

の就職先の企業や進学先の大学からは「大分高専の卒業生はまじめで実践に強い、優秀だ」との評価を戴いております。このような本校卒業生に対する国内のみならず国際社会からの高い評価は、何よりも卒業生諸氏の社会での立派な活躍の賜物であります。四月からは、技術者として実社会に出られる方、大学や大学院に進学される方と進む道はそれぞれ異なりますが、常に、先輩たちが築いてこられた大分高専の伝統と誇りを自覚しつつ、新しい分野の開拓者にならんと使命感をもって、それぞれの未来を築かれることを願っております。そして皆さんの活躍を通して、本校の歴史に新しく、輝かしい1ページを付け加えて下さいますようお願い致します。皆さんの活躍を大いに期待しています。

さて、本日の卒業式ならびに修了式を迎えられた皆さんに、是非とも心に留めておいて頂きたいことを三つお話しします。

一つ目は、「世のため、人のために尽くす。」であります。京セラの創業者で日本を代表する実業家としてだけでなく、数々の人材育成や慈善活動にも貢献をされた稲盛和夫氏は、ある講演の中で「人は何のために生きるのか」に対し、「世のため人のために尽くすこと。人間ができていなければ、心が高まっていなければ、世のため人のために尽くすことなど、できるものではない。」と話されています。また、現在のパナソニック、旧松下電器を一代で築きあげ「経営の神様」と呼ばれる松下幸之助氏も、「世の為、人の為になり、ひいては自分の為になるという事をやったら、必ず成就します。」と、稲盛氏と同様なことを述べられています。この世に生を受け、今日まで約20年生きてきた皆さんは、これからの人生、最低でも50年、60年。何のため、誰のために働き生きていくのでしょうか？ 世の為、人の為に尽くすということは、必ずしもボランティアなどの慈善活動だけではない、皆さんが従事する日々の仕事、日々の生活の中で、そのことを自覚できるような生き方をして戴きたいと願います。これからの人生、楽しいことや辛く苦しいことなど、決して平坦な道ばかりでなく険しい山や谷もあるでしょうが、常に夢と希望、そして「世の為、人の為に」との使命感を持ち続け、困難や課題に果敢に挑戦して行って下さい。そうすれば、必ずや道が開け明るく充実した未来が待っているでしょう。

二つ目として、「現状の課題を認識し、積極的に情報収集・分析して自らの業務改善に活かす」という事です。私たちを取り巻く社会的課題として、少子高齢化、自然災害、エネルギーなど、様々な問題が次第に深刻化を増しています。そのような中で、我が国の政府は、「Society 5.0」と名付けた、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に次ぎ第5の新たな社会として、人工知能やロボットなど、ICTやIotなどを駆使したデジタル革新、イノベーションによって、社会が抱える課題を解決して快適で豊かな生活を実現する構想を提唱しています。また、国際的にも、2015年の国連サミットで採択された2016年から2030年までの持続可能な開発目標としてSDGsが提唱されています。SDGsとは、「サステイナブル ディベラップメント ゴールズ」という英語の略語で、誰一人

取り残されない持続可能な豊かで活力ある社会を実現するため、貧困・飢餓から始まり、教育、ジェンダー、エネルギー、気候変動、平和など17のゴール、すなわち開発目標と、その下に169の具体的なターゲットを設定して、教育研究、企業活動などのあらゆる分野において積極的に取り組んでいこうというスローガンです。本校においても、来年度からスタートする高専機構第4期中期目標・計画期間における本校の教育のひとつの柱として、学科横断型の教育を特長とした、工学技術を農業分野に活用せんとするアグリエンジニア教育、災害に対するレジリエントマインドと基盤知識を持った人材育成の二つの教育プログラムは、Society 5.0あるいはSDGsへの一つの取組みと言えます。わが国および国際社会における現状認識と今後の課題の一例として、Society 5.0、SDGsについてご紹介しましたが、これらも含め、現状認識の下、自ら課題を発見し情報収集・分析の下、卒業生、修了生が本校で学んだ高度な専門技術力に裏打ちされた課題探求能力を発揮して社会の要請に応えられる活躍をされんことを、強く期待するものであります。

最後に第三点として、毎年申し上げていることですが、本校の学習・教育目標のひとつである「愛の精神」を持ち続けるということであり、「愛の精神」、この言葉は、本校の初代校長である松尾春雄先生が「AMOR OMNIA VINCIT」（アモール・オムニア・ビンキット）愛は全てに打ち勝つというカール・ヒルティの言葉とともに提唱され、本校で脈々と培ってきた「大分高専の魂、ここにあり」と申すべき言葉であり、本校卒業生の「合言葉」であります。どんなに科学技術が進化し発展しようとも「愛」に勝るものはなく、また「愛」あつての「科学技術」であることを忘れないでください。既に理解されている言葉かと思いますが、「工学そして科学技術」は人類文明の平和と持続的発展に貢献するためにあることを心してください。

以上、「世の為、人の為に尽くす」、「現状の課題を認識し、積極的に情報収集・分析して自らの業務改善に活かす」そして「愛の精神をいつまでも持ち続ける」、この三点についてお話ししました。どうぞ心に留めて、皆さんの今後に参考にして戴ければ幸いです。皆さんは、今、大分高専から新たな社会に向けて旅立たれようとしています。大分高専はいつまでも皆さんの知的探求心を支える拠点として、また心のふるさとして、応援し続けますことをお誓い申し上げます。

最後になりましたが、本科卒業生並びに専攻科修了生はもとより、本日ここにご臨席の皆様方のご健勝と、ますますのご多幸を祈念して、告辞と致します。

平成三十一年三月十八日

独立行政法人国立高等専門学校機構

大分工業高等専門学校長 日野伸一